第 20 回熊谷市地域公共交通会議　会議録

平成 29 年 1 月 26 日(木)13:30～14:45
熊谷市役所議会棟第 1 委員会室

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議題

(1)ゆうゆうバスのルート変更（要望箇所）について

①ゆうゆうバス運行ルート（全体図　資料１の1）

◆事務局説明（概要）

・資料２－１及び資料２－１（修正）の説明。

・当初は、資料２－１の変更案で進めていたが、既存の『森谷』停留所については、集落内の市道へ移設することで地元自治会長の了解が得られたため、資料２－１（修正）の変更案を提案するものである。

◆質疑・意見

（意見）今回の変更ルート案を見ると、朝日自動車の路線バスの運行ルートに非常に近い所を運行することになる。平成の初め頃に色々な自治体でコミュニティバスを運行するようになったが、当時は駅にコミュニティバスは入ってこなかった。しかし、徐々に市民の要望等からコミュニティバスも駅に入ってくるようになり、路線バス事業者は衰退していき、最終的には運行を廃止したというケースもある。

バス事業者は、近年の死亡事故などにより、安全運行が最重要課題となっており、運行時間の長時間化による運転手増員のため、経費が増加している。そういった中で、民間の路線バスと市のコミュニティバスの路線が重なっていくことによって、こちらの乗客が減少していくことを懸念している。そういったことを委員の皆様にも認識していただきたい。

（意見）只今の御意見は、民間の路線バスとコミュニティバスの運行ルートが重なると民間の路線バスは乗客を運賃の安いコミュニティバスに取られてしまうということだが、本来、コミュニティバスは民間路線バスの運行していない地域をカバーしており、ある地点の停留所で合流することによって、目的地に短時間で到着したい人は民間路線バスに乗り換えるという方法も考えられるので、共存出来るようなやり方を工夫していただきたい。

◆結論

・承認。

②ゆうゆうバス運行ルート（全体図　資料１の2）

◆事務局説明（概要）

・資料２－２及び資料２－２（修正）の説明。

・平成２９年４月１日開業予定の秩父鉄道新駅『ソシオ流通センター駅』への停留所の新設であり、熊谷市及び行田市のコミュニティバスそれぞれが、新駅へ乗り入れることで利用者増が見込まれるため、ルートを変更するものである。

・今までは、グライダー号及びムサシトミヨ号で朝と夕方のみ停車していたが、今後は、さくら号で常時停車するようなルート変更案を提案するものである。

◆結論

・承認。

③ゆうゆうバス運行ルート（全体図　資料１の３）

◆事務局説明（概要）

・資料２－３の説明。

・産前、産後を含め、子育て世帯が利用する母子健康センターへのアクセス向上の観点から提案するものである。

◆質疑・意見

（質問）今回の変更ルートは、熊谷高校の近くを運行することや道路の幅員が狭いことが課題となるため､朝と夕方の時間帯は運行しないこととなっているが、土曜日と日曜日の運行はどうするのか？

（回答）土・日は母子健康センターの業務は行っていないが、休日・夜間の診療所は行っているので、運行をお願いしたい

（質問）土・日についてもすべての便を運行するということでよいのか？

（回答）時刻表の調整を行う際に、詳細を決定して行く予定だが、こちらは平日も休日も同様の運行を行うことを考えている。

（質問）小委員会の中で、道路管理者及び公安委員会との事前協議をお願いしていたが、どうなっているのか？

（回答）道路管理者との協議は終了しているが、警察との日程調整の結果、協議は明日行う予定となっている。

（質問）警察との協議の結果､提案された変更ルートを見直す必要が生じた場合は、事務処理期間が長くなることを承知願いたい。

（回答）了解した。

◆結論

・承認。

④ゆうゆうバス運行ルート（全体図　資料１の4）

◆事務局説明（概要）

・資料２－４の説明。

・今までは、江南地域の人の駅への速達性を考慮し、運行ルート上ではあっても、江南地域以外の地域には停留所をなるべく設置していなかったが、江南・吉岡の両地域住民から要望されたため、丹羽クリニック前に新設することになった。

◆質疑・意見

（質問）小委員会で協議してきた、停留所の位置と若干違っているのはどういった理由か？

（回答）運行事業者と現地を確認したところ、丹羽クリニック付近は、カーブしており見通しが悪い。また、吉岡郵便局付近は車道と歩道の間にガードレールが連続しているため、停留所の設置が困難であるとの判断に達した。

（意見）今回の変更ルートと民間路線バスの運行ルートが重なっているため、朝と夕方は、停車しないよう配慮をお願いしたい。

◆結論

・承認。

⑤ゆうゆうバス運行ルート（全体図　資料１の5）

◆事務局説明（概要）

・資料２－５の説明。

・ルートの変更はなく、現行の運行ルート上に停留所を新たに新設するものである。

◆結論

・承認。

⑥ゆうゆうバス運行ルート（全体図　資料１の6）

◆事務局説明（概要）

・資料２－６の説明。

・こちらもルートの変更なし、停留所も別のコミュニティバス（さくら号）ですでに使用していた停留所を使用することになっている。

◆質疑・意見

（意見）同じ停留所を使用するため、２台のコミュニティバスが同時に停留所に停車することのないよう配慮をお願いしたい。

◆結論

・承認。

⑦ゆうゆうバス運行ルート（全体図　資料１の7・8）

◆事務局説明（概要）

・今回、協議していただいた６つの変更案の他に小委員会の中で協議を行った場所が２箇所あった。この２箇所については、道路の幅員等による運行ルートの問題や民間バス路線との調整が困難なことから今回は見送ることとした。

⑵ほたる号の事業評価について

◆事務局説明（概要）

・資料３の説明。

・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の事業評価について、計画どおり事業が実施できたかどうかを判定する「事業実施の適切性」及び年間利用者数及び１便あたりの乗車人数を目標に設定している「目標・効果達成状況」について、どちらも適切に実施していることから『Ａ』判定とさせていただいた。

◆質疑・意見

（意見）１人あたり、いくら位の経費がかかっているのか。次回の会議開催時に年度ごとの推移を教えて欲しい。

（意見）コミュニティバスのターゲットや利用者の状況（年齢別、通院、通勤、通学、交通弱者、交通不便地域など）を教えて欲しい。

（意見）年間利用者数を目標にしているが、民間路線バスに路線を重ねることで、利用者の増加は可能であるが、民間路線バスの経営を圧迫しないような目標の設定をして欲しい。

（意見）コミュニティバスと民間路線バスの運賃に差がありすぎるので、路線バスとコミュニティバスの同じ路線での共存は難しいため、配慮して欲しい。

（意見）現在のコミュニティバスは、路線が非常に長く、細かい所まで回りすぎている。要望を全て受け入れて行くと更に１回の運行時間が長くなってしまう恐れがある。他の自治体をみても、１回の運行時間が短い路線ほど運行本数も多く利用者は多い傾向にある。要望でルートを変更しても利用者が少ない場合は元のルートに戻すなどのルールを考えて欲しい。また、狭い道路や一時停止の回数が多くなれば事故の確率も増えるため、ルート変更の際はそのあたりも考慮してもらいたい。

◆結論

・承認。

◆質疑・意見（その他）

（質問）ゆうゆうバスの再編の基本方針の中に、高齢化社会に対応するものとあるが、本市の高齢化率も 26%を超えたため、現在運行しているバスや今後導入予定のバスは超低床型ノンステップバスなのか教えて欲しい。

（回答）現在のコミュニティバスは、全てノンステップバスとなっている。民間のバスについても毎年、増加しております。

4. その他

(1) 報告事項について

◆事務局説明（概要）

・秩父鉄道新駅の進捗状況についての報告

・平成２９年４月１日（土）の開業を目途に準備を進めている。

・国の補助金を活用した事業のため、１月１９日に鉄道運輸機構による中間検査を受け、特に指摘事項はなかった。

・３月中旬を目途に工事の完了を予定している。
・新駅開業後は行田市、熊谷市のコミュニティバスを停車させて、新駅の利用促進に努めたい。

◆質疑・意見

（質問）駅のロータリーのバス停留所の位置はどうなっているのか？
（回答）駅舎の正面東側に作る予定です。
（質問）タクシー乗り場を作る予定は？
（回答）今のところ専用のタクシー乗り場は考えておりません。コミュニティバスの乗降場所と一般車両用の乗降場所を設ける予定となっている。

5. 閉会